

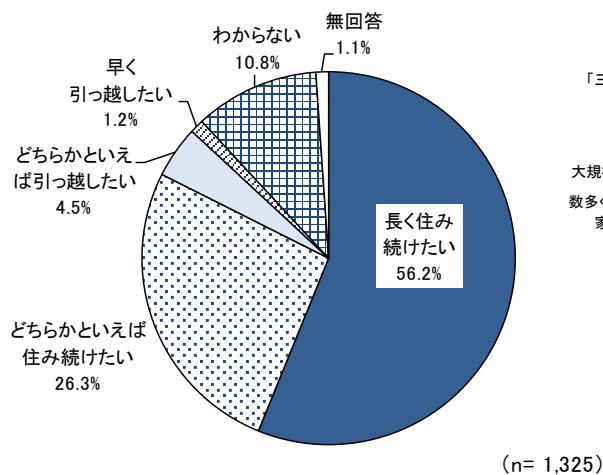
令和元年度 中区区民意識調査 結果概要

■ 中区定住意向、魅力

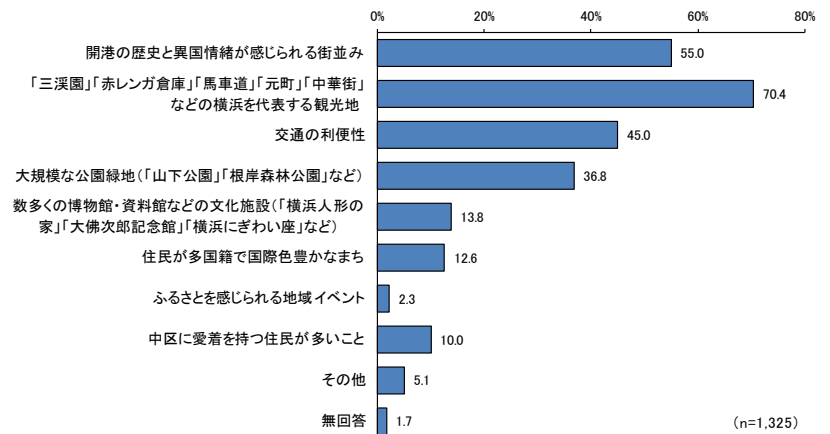
8割以上の人が中区に住み続けたい。「三溪園、赤レンガ倉庫、馬車道、元町、中華街などの横浜を代表する観光地」が中区の最も誇れる魅力に

「中区に住むようになった理由」については、「住環境が良いと思ったから」が3割強で最も高く、次いで「通勤や通学に便利だったから」、「親の代から住んでいる」の順となっています。

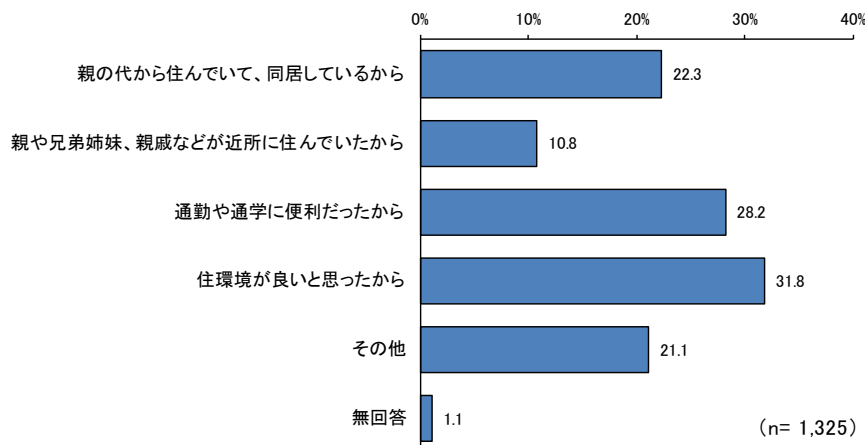
問 8 これからも中区に住み続けたいと思いますか



問 13 知人や友人に誇れる中区の魅力は何ですか (3つまで回答可)



問 7 中区に住むようになった理由 (複数回答可)



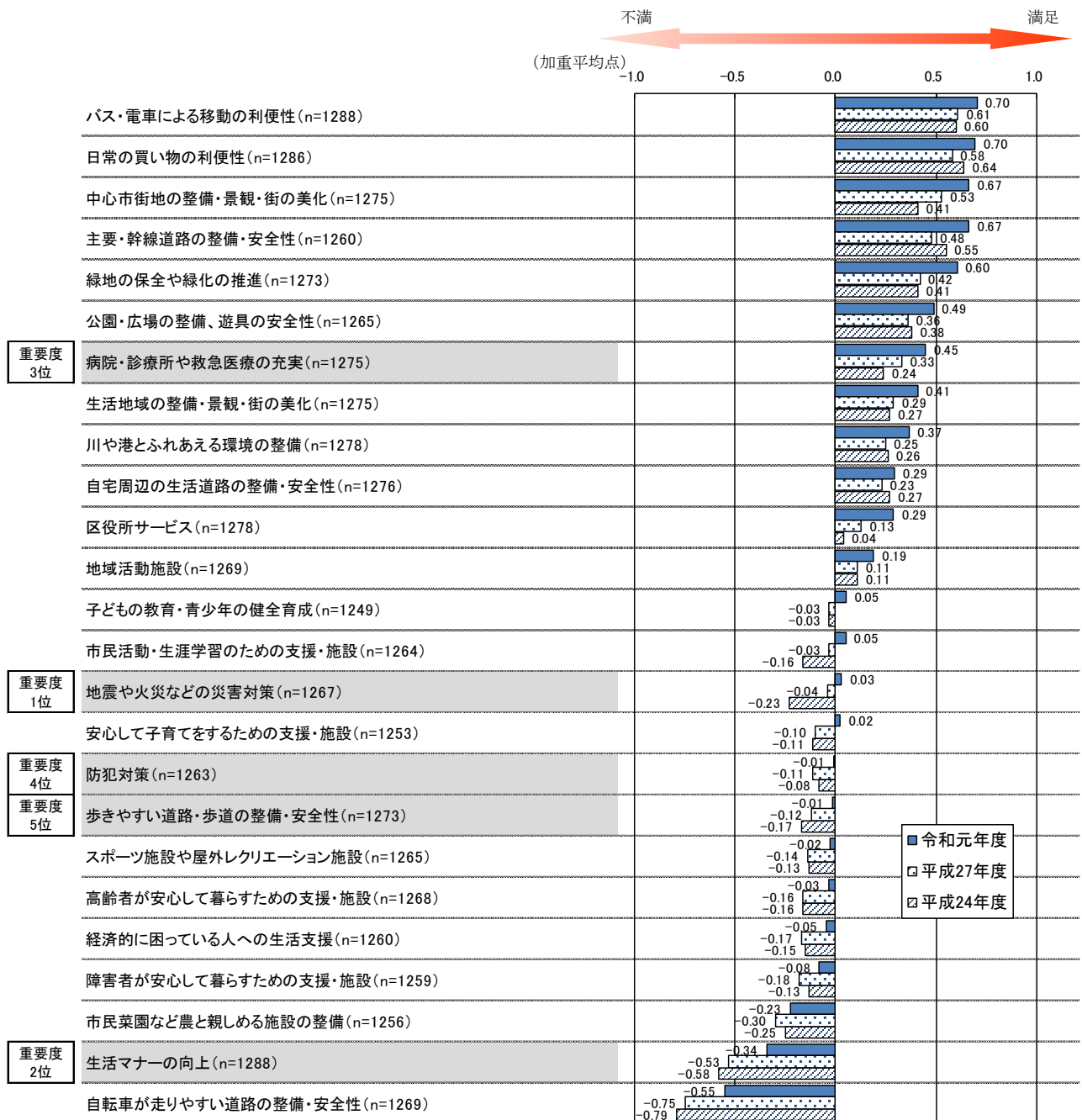
## ■ 中区の行政サービス

「バス・電車による移動の利便性」「日常の買い物の利便性」の満足度が高く、全ての項目で満足度が上昇

行政サービスに関する 25 の項目について、「現在の満足度」と「将来の重要度」を 5 段階で評価を得て、結果をポイント（加重平均点\*による指標）化して分析しました。「現在の満足度」に関しては、平成 27 年度と同様に、「バス・電車による移動の利便性」、「日常の買い物の利便性」上位 2 項目となりました。また、全ての項目で満足度が上昇しています。なお、「将来の重要度」で上位に挙げられた項目は、概ね満足度が低くなっています。

\* 加重平均点とは…{満足×2+やや満足×1+やや不満×(-1)+不満×(-2)}÷(全体-無回答)という計算式で平均値を算出したもの

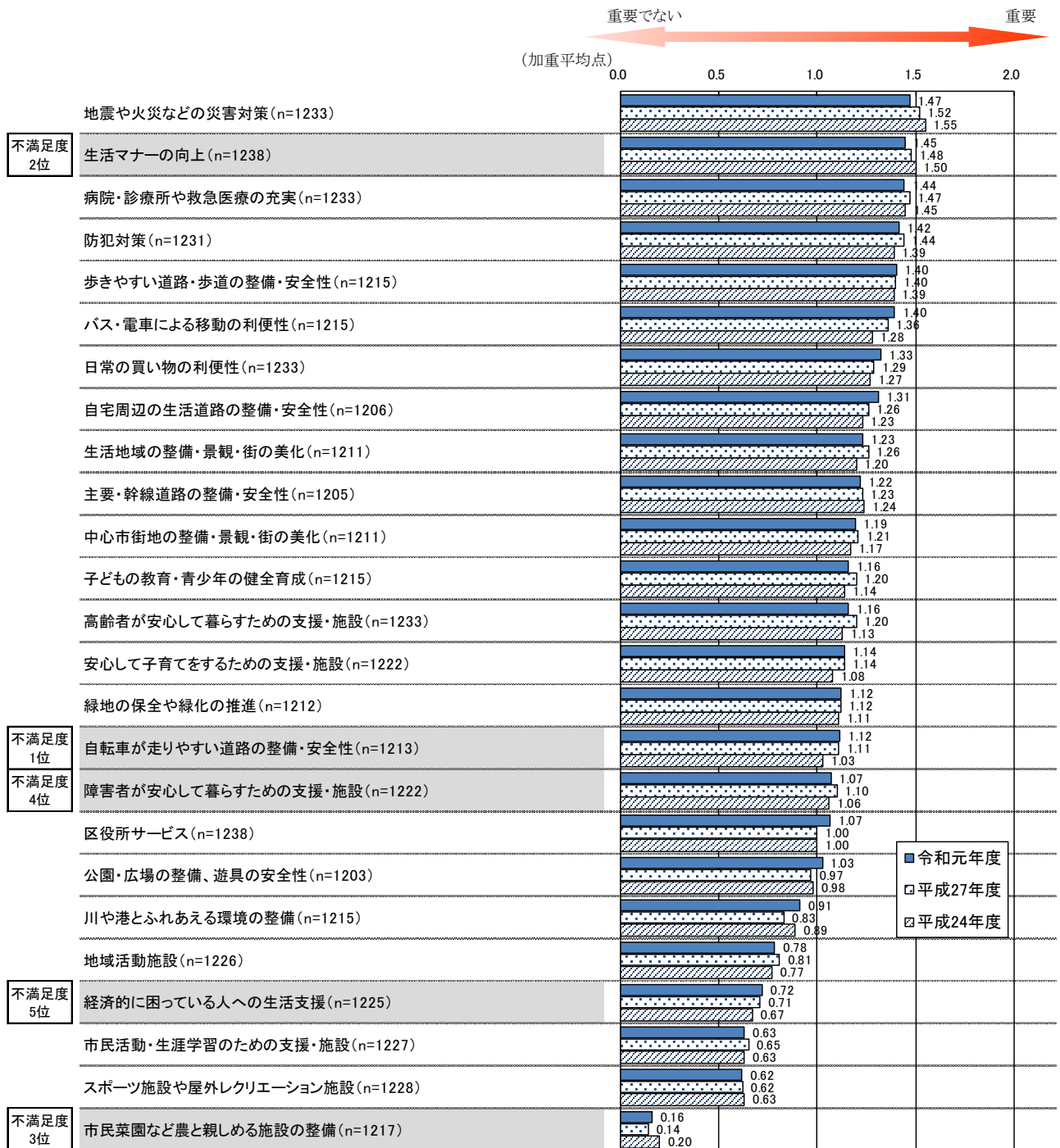
### 問 14 中区の行政サービスに関する「現在の満足度」



「地震や火災などの災害対策」「生活マナーの向上」が重要度の上位2項目に

「将来の重要度」を見ると、平成27年度と同様に「地震や火災などの災害対策」が最も高くなっています。平成27年度は重要度4位であった「生活マナーの向上」は今回2位に挙げられました。この「生活マナーの向上」は不満足度が2位となっており、将来に向け重要だと考えている人が多いことが分かります。

問14 中区の行政サービスに関する「将来の重要度」



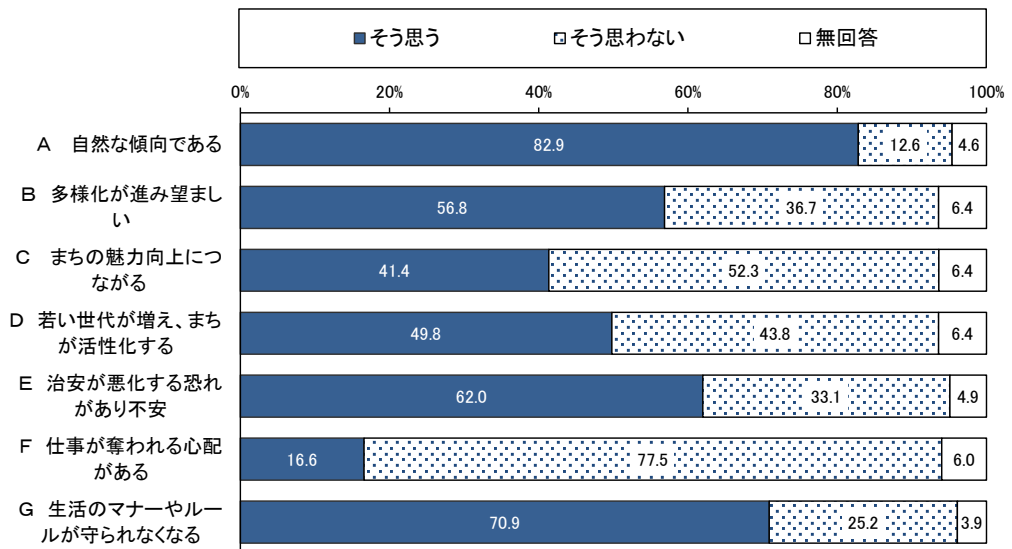
## ■ 多文化共生

外国人増加に関する意見について、「自然な傾向である」とする人が8割を超える一方で、不安の声も混在

外国人増加に関する意見について、日本人に尋ねたところ、「自然な傾向である」とする人は8割を超えています。年代別でみると、18～29歳の若い年代で「自然な傾向である」とする人が93.8%で最も高く、「まちの魅力向上につながる」「若い世代が増え、まちが活性化する」に関する意見についても、概ね若い年代の人が「そう思う」とする割合が高い傾向となっています。

一方、「生活のマナーやルールが守れなくなる」「治安が悪化する恐れがあり不安」と感じている意見も多数見られました。

問 16 外国人増加に関する意見（日本人版調査）

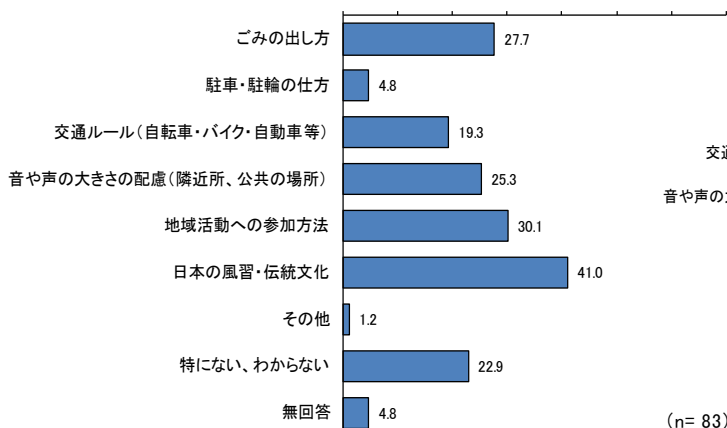


外国人が知りたいこと … 「日本の風習・伝統文化」、「地域活動への参加方法」  
日本人が外国人に知ってほしいこと … 「ごみの出し方」、「音や声の大きさの配慮」

「日本のルール・習慣で知りたいこと」を外国人に尋ねたところ、「日本の風習・伝統文化」が約4割で最も高く、次いで「地域活動への参加方法」が約3割となっています。一方、「外国人に知ってほしいこと」を日本人に尋ねたところ、「ごみの出し方」が約6割で最も高く、次いで「音や声の大きさの配慮（隣近所、公共の場所）」が約5割となっています。

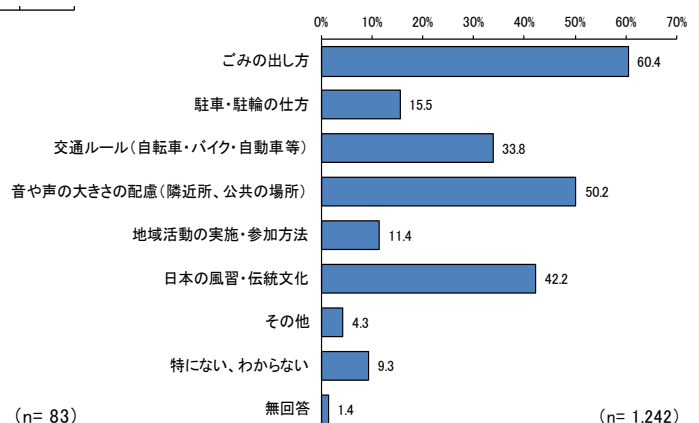
問 20 日本のルール・習慣について知りたいこと（外国人版調査）

（3つまで回答可）



問 20 外国人に知ってほしいこと（日本人版調査）

（3つまで回答可）



**外国人／日本人との生活で戸惑った経験について、「特にない」が最多に  
一方、外国人との「付き合いがない」日本人が4割超、外国人とのつながりの希薄さがうかがえる**

外国人／日本人との生活で戸惑った経験について、日本人／外国人に尋ねたところ、日本人・外国人ともに、「特にない」の割合が最も高くなっています。

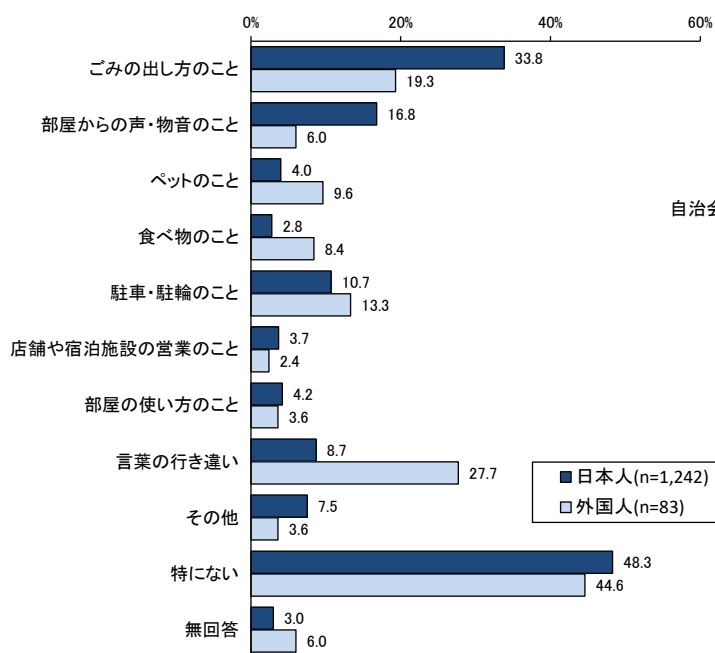
戸惑った経験の内容としては、日本人の回答では「ごみの出し方のこと」が3割強、「部屋からの声・物音のこと」が1割台後半、「駐車・駐輪のこと」が約1割などとなっています。外国人の回答では、「言葉の行き違い」が2割台後半、「ごみの出し方のこと」が2割弱、「駐車・駐輪のこと」が1割台前半などとなっています。

日本人は外国人と、外国人は日本人と、それぞれどのような交流があるか尋ねたところ、日本人の調査結果では、「付き合いがない」の割合が最も高く、4割を超えています。

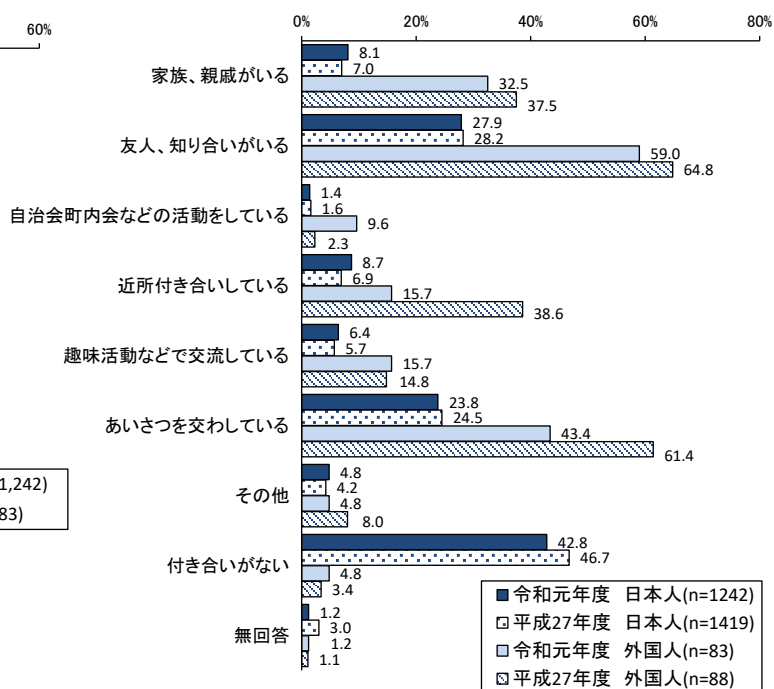
外国人の調査結果では、「友人、知り合いがいる」の割合が最も高く、次いで「あいさつを交わしている」「家族、親戚がいる」の順となっています。平成27年度に比べ、「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の割合が大きく下がっています。

問 19 外国人／日本人との生活の中区で戸惑った経験

(複数回答可)



問 17 外国人／日本人とどのような交流がありますか

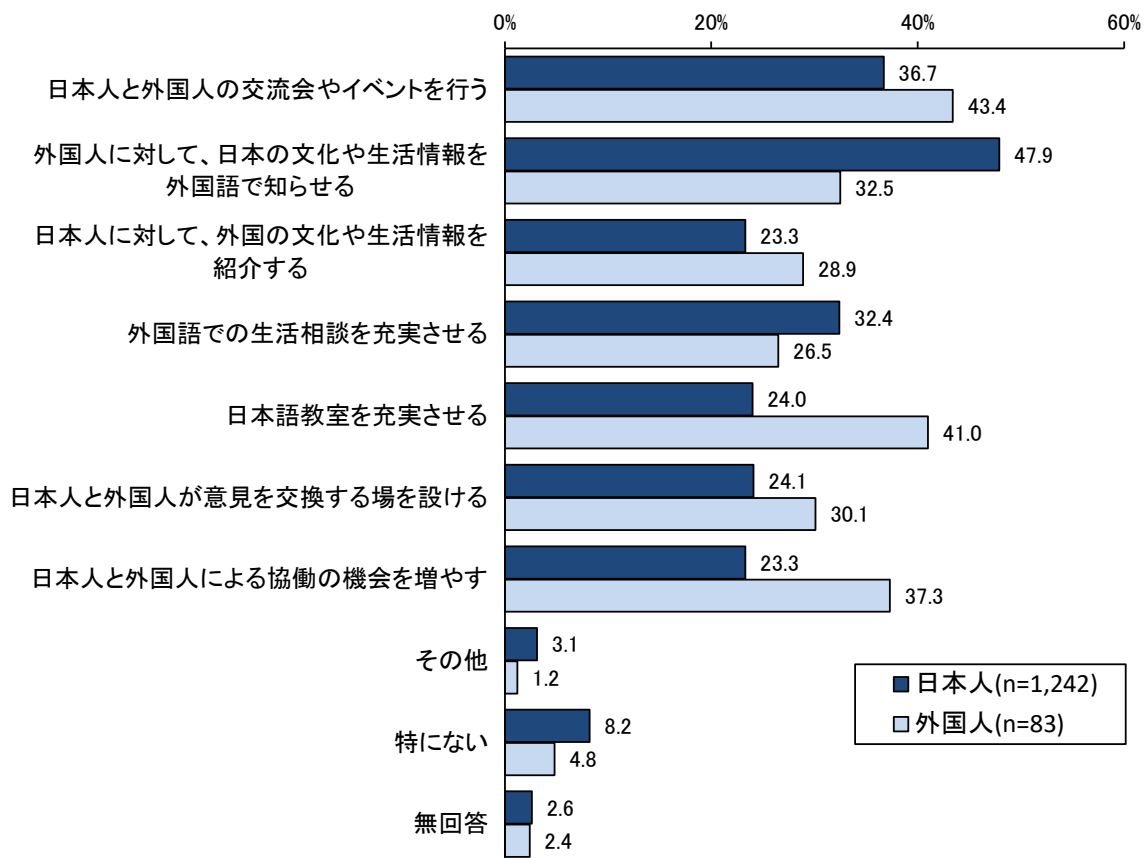


「多文化共生のまちづくり」推進のため区が力を入れるべきことについて、外国人と日本人で二  
 ーズの違い

日本人の調査結果では、「外国人に対し、日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が5割近くで最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」、「外国語での生活相談を充実させる」が3割台で続いています。

外国人の調査結果では、「日本人と外国人の交流会やイベントを行う」が最も高く、次いで「日本語教室を充実させる」、「日本人と外国人による協働の機会を増やす」の順となっています。

問 23 「多文化共生のまちづくり」推進のため区が力を入れるべきこと（3つまで回答可）



## ■ 地域福祉

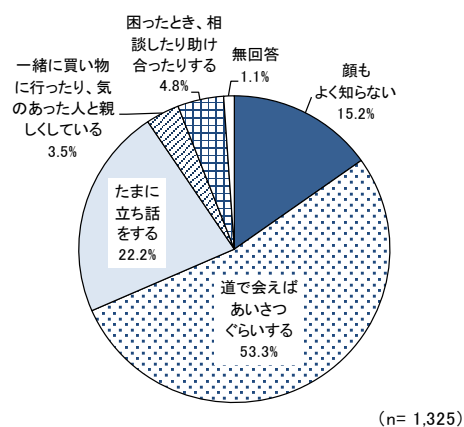
隣近所との付き合い方は、適度な距離感を好んでいることがうかがえる。

居住形態別にみるとマンション等共同住宅居住者は、隣近所との交流がほとんどない人もいる様子。

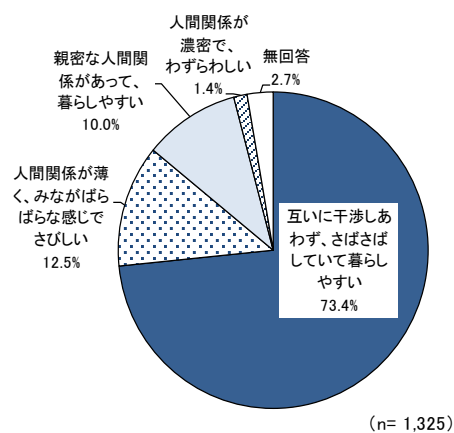
「隣近所との付き合い方」について、「道で会えばあいさつぐらいする」が5割を超え、「隣近所との付き合い方をどう感じているか」についても、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が7割を超えおり、隣近所との適度な距離感を好んでいることがうかがえます。

一方、賃貸（マンション等共同住宅）居住者では、「顔もよく知らない」が3割を超えており、隣近所との交流がほとんどない人もいる様子がうかがえます。

問 26 隣近所との付き合い方



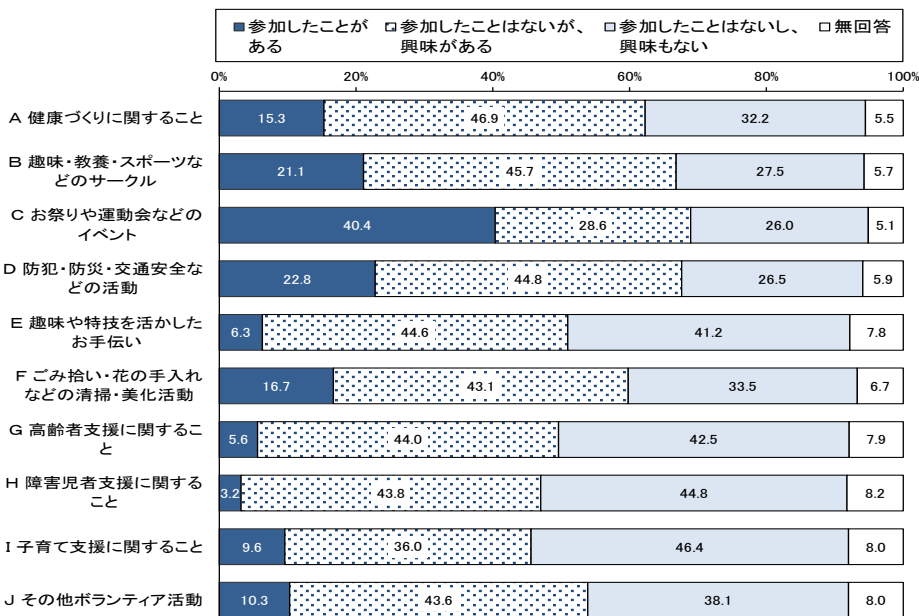
問 27 隣近所との付き合いをどのように感じていますか



地域活動の参加状況は、「お祭りや運動会などのイベント」の割合が最も高く、女性の方が男性より参加の割合が高い。

地域活動の参加状況について、「お祭りや運動会などのイベント」の割合が4割を超えています。次いで「防犯・防災・交通安全などの活動」、「趣味・教養・スポーツなどのサークル」が2割強となっています。また、ほとんどの活動で女性の方が男性より参加の割合が高い傾向となっています。

問 28 地域活動の参加状況

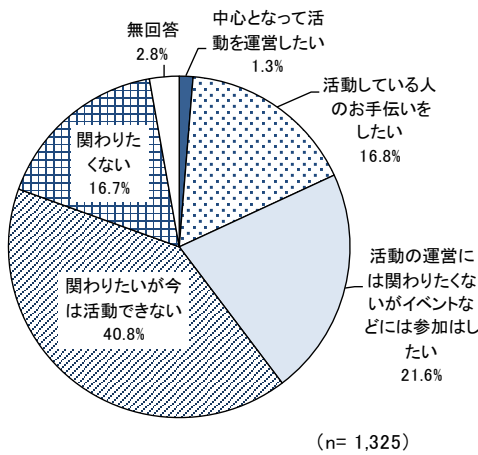


地域活動への参加は、「関わりたいが今は活動できない」人の割合が最も高い。年代別にみると年代が上がるほど参加意向が高い。

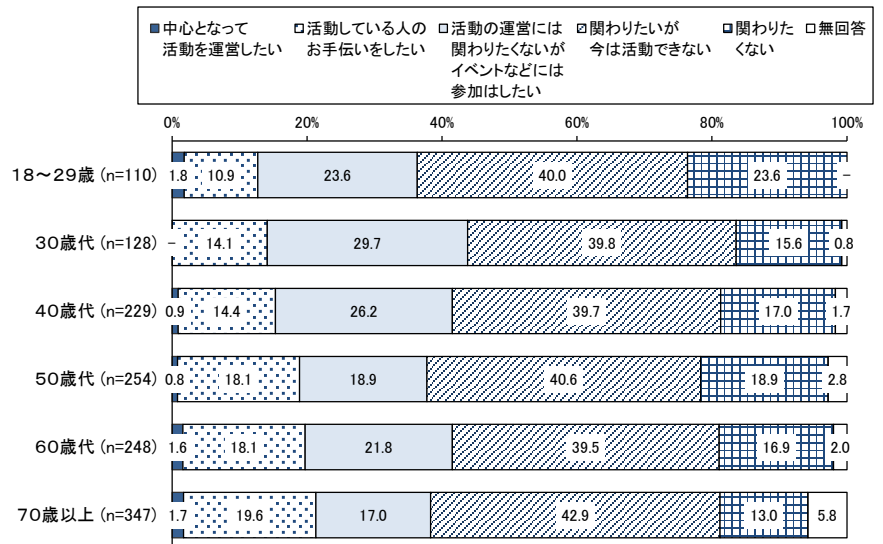
「地域活動に関する考え方」について、「関わりたいが今は活動できない」が4割で最も多く、次いで「活動の運営には関わりたいがイベントなどには参加はしたい」が2割強となっています。一方で「中心となって活動を運営したい」と「活動している人のお手伝いをしたい」を合わせた活動参加意向のある人の割合は、年代が上がるほど高い傾向となっています。

地域活動に参加しやすいと思う条件については、「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」が5割近くで最も高くなっており、特に常勤で就労している人では、6割を超えています。次いで「気軽に参加できる活動がある」が約4割、「活動場所が近くにある」「家族・友人など知っている人と参加できる」が約3割となっています。

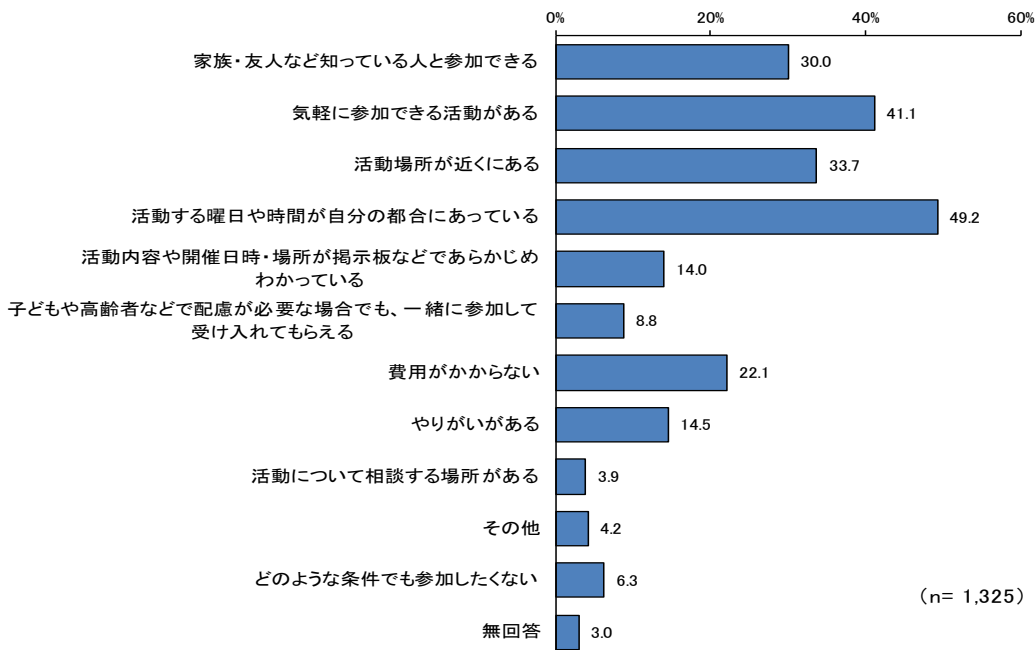
問 29 今後の地域活動に関する考え方



問 29 今後の地域活動に関する考え方【年代別】



問 30 どのような条件であれば、あなたは地域活動に参加しやすいと思いますか（3つまで回答可）

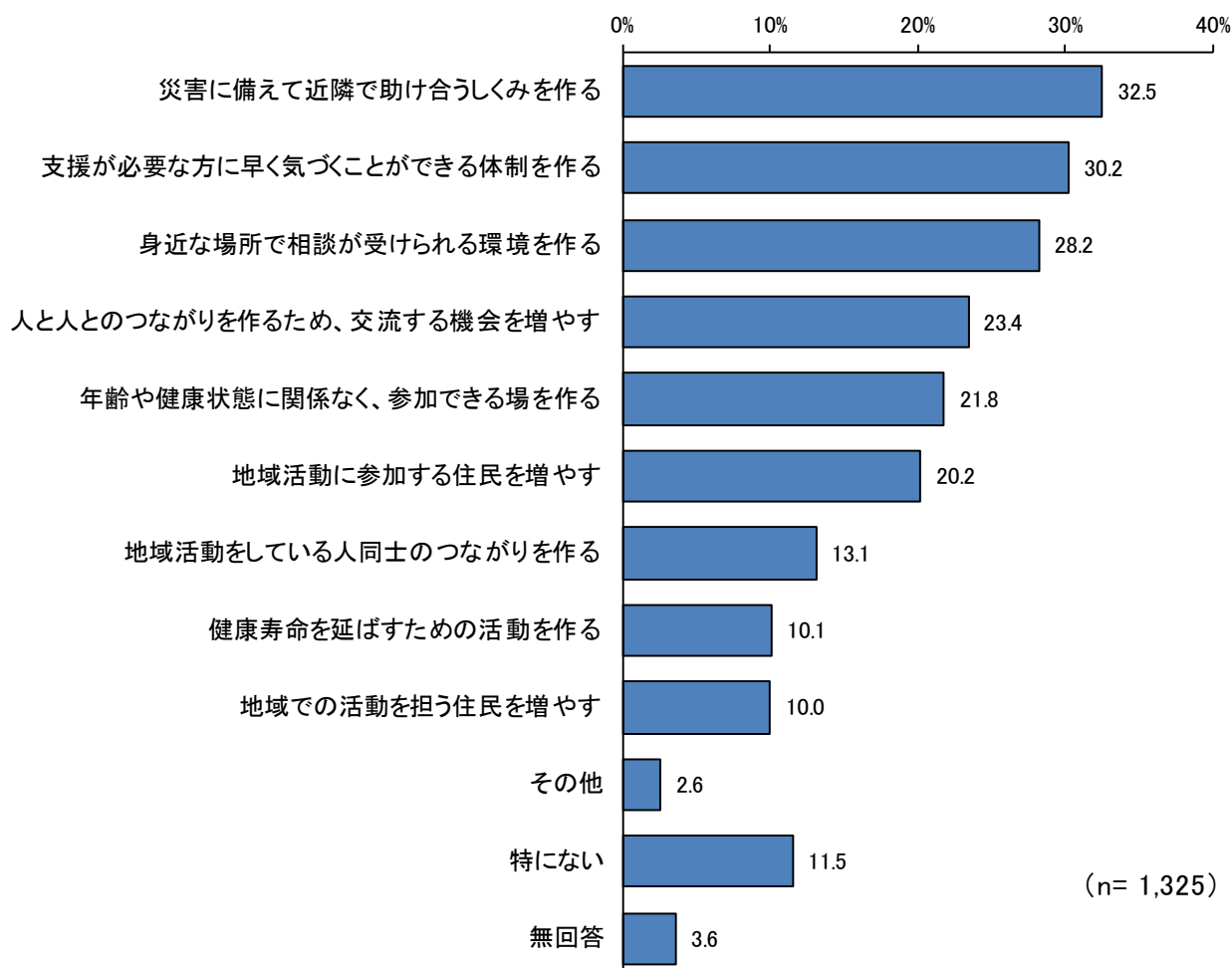




地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組については、「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」が最も高い回答。

地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組については、「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」が3割強で最も高く、次いで「支援が必要な方に早く気づくことができる体制を作る」「身近な場所で相談が受けられる環境を作る」が3割前後となっている。以下、「人と人とのつながりを作るため、交流する機会を増やす」「年齢や健康状態に関係なく、参加できる場を作る」「地域活動に参加する住民を増やす」がそれぞれ2割強で続いている。

問 34 地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組は何ですか（3つまで回答可）



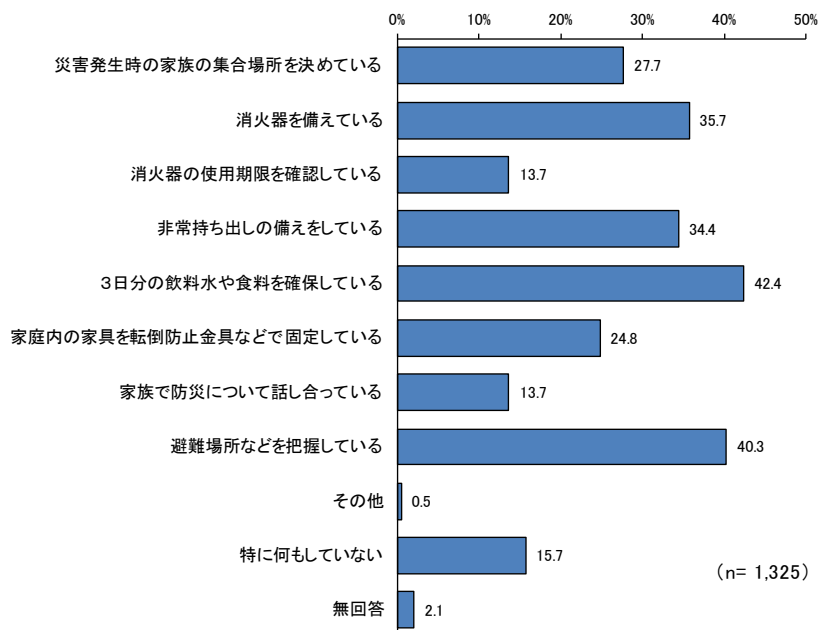
## ■ 防災

### 「3日分の飲料水や食料を確保している」が4割強 一番不安に感じていることは「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」

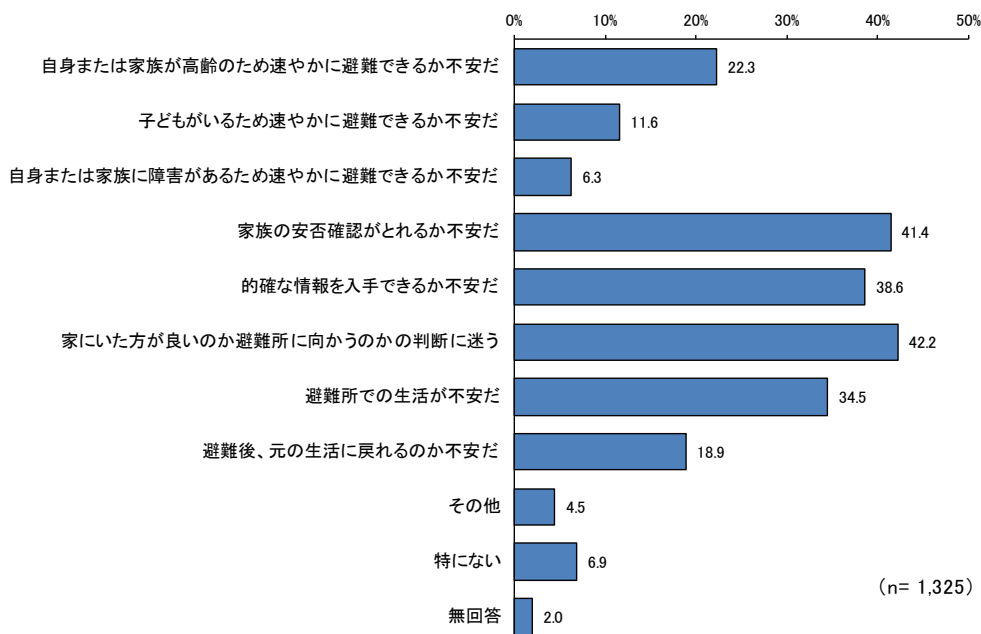
「災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」について、「3日分の飲料水や食料を確保している」が4割強でもっとも高く、次いで「避難場所などを把握している」が約4割となっています。一方、「特に何もしていない」は18～29歳、30歳代で2割を超えています。

「災害発生に対して不安に感じていること」については、「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」、「家族の安否確認がとれるか不安だ」が4割強で高く、次いで「的確な情報を入手できるか不安だ」「避難所での生活が不安だ」が3割台となっています。

問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること(複数回答可)



問 40 あなたが災害発生に対し不安に感じていることは何ですか (3つまで回答可)



## ■ 行政情報の入手方法

「広報よこはま中区版」の割合が最多。市・区のホームページや SNS 利用者の増加が目立つ。

行政情報・地域情報の入手方法について、「広報よこはま中区版」が7割近くで最も高く、次いで「回覧板、自治会町内会の掲示板、ポスター」、「タウン情報誌」の順になっています。

平成 27 年度に比べると、「中区ホームページ」、「横浜市のホームページ」の割合が上がっている一方、「広報よこはま中区版」は減少傾向になっています。

問 46 横浜市や中区の行政情報や地域情報の入手方法（複数回答可）

